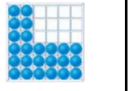


5 本時（第1学年：4/10，第2学年：4/7）

- (1) 目標
(第1学年)
◎ 繰り下がりのある減法の計算の仕方を考えたり，具体物や言葉，式，図を用いて表現したりすることができる。
- (2) 指導に当たって
同時導入で授業を展開し，つかむ・見通す段階では，ガイドを中心に学習問題からめあてを導き出し，主体的に問題解決に取り組んでいこうとする雰囲気を大切にしたい。調べる・練り上げる段階では，ガイドを中心に話し合わせ，共通点を探していく活動を行い，まとめへとつなげる。まとめ・振り返りの段階では，共通点や大切な言葉を基に，教師の支援を受けながら，自分たちでまとめができるようにしたい。また，練習問題に取り組みせ，学習の定着を図る。さらに，異学年の交流を図り，本時にどのようなことができるようになったのか，どのように考えが変容したのかを子供に実感させ，次の学習につなげられるようにしたい。
- (3) 実際

- (第2学年)
◎ L字型に並んだボールの数の求め方について，乗法九九を活用して考えることができる。

指導上の留意点	主な学習活動（第1学年）	過程	位置／時間	過程	主な学習活動（第2学年）	指導上の留意点
・ 見通しをもって主体的に問題解決に取り組むことができるように，共通のテーマを確認したり，前時までの学習内容を確認したりする。 ・ 本時のめあてを引き出すことができるように，前時までの10を作る方法などから，「気付いたこと（今までと違うこと）」に着目できる問題を設定する。 ・ 自力解決につながるように，答えの予想では「4から6は引けないから，10よりは小さい」など，概算ができるようにする。 ・ 本時の課題解決につなげていけるように，「方法の予想」では，10を作ったり，図やブロック，「ひくたす」「ひくひく」を使ったりするなど，具体的な考え方の予想ができるようにカードを活用する。また学習に使うツールを選択させ，多様な考え方ができるようにする。	1 学年別学習課題を確認する。 2 前時の復習をする。 3 学習課題を確認する。 竹とんぼが14本あります。6本飛ばすと，残りは何本ですか。 4 気付いたことを出し合う。 ・ 式は14－6かな。 ・ ばらの4から6は引けないな。 5 本時のめあてを確認する。 ばらの4から6を引けないときは，どうすればよいかな。 6 問題の答えの予想をする。 ・ 10より小さい。 7 問題を解決する方法の予想を立てる。 ・ 前さくらんぼや後ろさくらんぼで分ける。 ・ 10を作る。 図やブロックを使う。 ・ 「ひくたす」や「ひくひく」を使う。	つかむ・見通す	⑩	つかむ・見通す	1 学年別学習課題を確認する。 2 前時の復習をする。 3 学習課題を確認する。 下の箱に入ったボールの数を求めよう。 4 気付いたことを出し合う。 ・ すきまがあるね。 ・ ボールの数を求めるんだな。 5 本時のめあてを確認する。 すきまがあるときのボールの数を求めるには，どうすればよいかな。 6 問題の答えの予想をする。 ・ 36より少ない。 ・ 24より大きい。 7 問題を解決する方法の予想を立てる。 ・ 九九が使えるように分ける。 あわせる。 ・ 全部から引く。 動かす。	・ 見通しをもって主体的に問題解決に取り組むことができるように，単元を通して解決を図る学習課題を確認したり，前時までの学習内容を確認したりする。 ・ 本時のめあてを引き出すことができるように，前時までの乗法九九が使えるように分ける方法や，かけ算のきまりなどから，「気付いたこと（今までと違うこと）」に着目できるような問題を設定する。 ・ 自力解決につながるように，答えの予想では「6×6の枠だから36より少ない」など，大まかな答えを出せるようにする。 ・ 本時の課題解決につなげていけるように，「方法の予想」では，乗法九九が使えるように分けたり，合わせたり，動かしたりするなど，具体的な考え方が予想できるようにカードを活用する。また，学習に使うツールを選択させ，多様な考え方ができるようにする。
・ 子供主体で学習を進めていけるように，教師は個別指導に入る。特に，自分の考えがまとめられない子供には，友達に聞きに行くように促したり，方法の予想を基に再度確認できるように声掛けしたりする。 ・ 自分の考えを説明できるように，図や言葉などをホワイトボードに書かせる。また，図の描き方が分からない子供には，前時の学習を振り返り，具体物を操作しながら考えるなど，声掛けをする。 ・ 教師が助言し，子供と一緒に考えを仲間分けしたり，同じ考えや大切な言葉に印を付けたりすることで，共通点を探しやすくする。 評価 繰り下がりのある減法の計算の仕方を考えたり，具体物や言葉，式，図を用いて表現したりすることができたか。〔思〕	8 自力解決を図る。 14を10と4に分けて計算する「ひくたす」を使ったよ。 6を4と2に分けて計算する「ひくひく」を使ったよ。 9 考えを交流する。 「ひくたす」と「ひくひく」どちらでもできるね。 10 とばらに分けて計算しているね。	調べる・練り上げる	⑳	調べる・練り上げる	8 自力解決を図る。 6の段と3の段に分けて考えたよ。 ボールを動かして，6×5で求めたよ。 9 考えを交流する。 九九が使えるように分けているね。 きまりを使ったり，全体から引いたりしているね。	・ 子供主体で学習を進めていけるように，教師は個別指導に入る。特に，自分の考えがまとめられない子供には，友達に聞きに行ったり，方法の予想を再度確認したりするよう促す。 評価 L字型に並んだボールの数の求め方について，乗法九九を活用して考えることができたか。〔思〕 ・ 深まりのある話合いとなるように，自分の考えと同じところや違うところを比べながら聞き，共通点を見付けられるようにする。また，協働的な話合いができるように，必要に応じてガイド学習の手引きを活用させたり，教師がコーディネーターとして状況に応じた助言を行ったりする。
・ 自力解決や話合いで働かせた数学的な見方・考え方を意識して，教師の助言の下，共通点や大切な言葉から学習のまとめができるようにする。 ・ 本時の学習の定着が図れるようにチェック問題と発展問題を用意し，自分で選択して練習問題に取り組むことができるようにする。 ・ 自分の考えの変容や友達考えのよさにも気付くことができるように，振り返りの中で，「わかったこと・できるようになったこと」「考えが変わったところ」「次に頑張りたいこと」の3つの視点で振り返りをする。	10 まとめをする。 10を作って，「ひくたす」や「ひくひく」をすればよい。 11 練習問題で確認する。 チェック問題：14－5 発展問題：11－5，13－6 12 振り返りをする。 14－6は，10を作って，「ひくひく」をすればよいことが分かりました。宇宙っ子フェスティバルでも，すぐに計算できるといいです。	まとめる・振り返る	⑮	まとめる・振り返る	10 まとめをする。 九九が使えるように分けたり，きまりを使ったり，全体から引いたりすればよい。 11 練習問題で確認する。 【チェック問題】 ●の数  【発展問題】 ① ●の数  ② ●の数  12 振り返りをする。 ボールの数を求めるには，九九が使えるように分けて動かせばいいことが分かりました。2年生の学習問題も同じようにすれば解けそうだと思います。	・ 自力解決や話合いで働かせた見方・考え方を意識して，共通点や大切な言葉から自分たちでまとめができるようにする。 ・ 本時の学習の定着が図れるようにチェック問題と発展問題を用意し，自分で選択して練習問題に取り組むことができるようにする。 ・ 自分の考えの変容や友達考えのよさにも気付くことができるように，振り返りの中で，「わかったこと・できるようになったこと」「考えが変わったところ」「次に頑張りたいこと」の3つの視点で振り返りをする。

